

解説

加速するインドネシアの下水道整備 ～現地活動から見えてくる課題と展望～

つもり ジュン

(独)国際協力機構
専門家/下水管理アドバイザー

1 はじめに

「MRT、ジャワ島北幹線鉄道高速化、ジャカルタ下水道整備計画、エネルギー案件など、両国の協力案件の迅速な実施のため緊密に協力したい」¹⁾ (傍線は筆者付記)

これは、2017 (平成29) 年11月12日にフィリピン・マニラで行われた安倍首相とジョコ・ウイド大統領 (インドネシア共和国、以下、インドネシア) との首脳会談の際の安倍首相発言です。これに対しジョコウイ大統領²⁾ からは「インドネシアとして両国国交樹立60周年を祝いたい、特に60周年を通じて日本とのインフラ分野のプロジェクトを進展させ記念としたい」と述べられています。



写真-1 インドネシア初の地下鉄工事が進むジャカルタ市内スディルマン通り

2017年7月末、ジャカルタに (独)国際協力機構 (以下、JICA) 専門家・下水管理アドバイザーとして着任してから3箇月が過ぎたばかりの11月中旬に上述のインドネシアの下水道整備を加速させるための動きがありました。本稿では「インドネシアで仕事をしてみようか」と検討されている推進技術に関わられる読者を念頭に、短い期間ですが、筆者が着任してから見聞したことをもとに、推進技術をインドネシアにおいて展開するにあたっての課題と展望を述べたいと思います。

なお、インドネシアやその首都ジャカルタについては、また下水道整備の現状については、Vol.29 No.1 (2015年1月号) の本誌特集記事として掲載されている前任のJICA 専門家である西修氏 (現中部地方整備局庄内川河川事務所長) の記事³⁾ と同号の中島英一郎氏 (元インドネシアJICA 専門家、現日本推進技術協会専務理事) の記事⁴⁾ もあわせてご覧いただきますとより理解が深まると思われます。

2 インドネシアとはどのような国なのでしょう

筆者は、着任前までにプライベートと業務で数回インドネシアに滞在したことがありますが、いずれの場合も2週間に満たない短期間であり目的地や業務内容も限定されていたため、広くインドネシアという国と向きあう機会はありませんでした。これに対して着任後5箇月間、こち

らで暮らしてみると強く感じる違和感があり、それは、やはりこの国がイスラム教をベースにした国であるからではないか、と感じています。

2.1 生活規範としてのイスラム

イスラム教という最近の情勢ではどうしても我々日本人にとってステレオタイプのなかなかよくわからないイメージが多くなっているように思われますが、報道で見られるような複雑なとらえ方よりも単純に社会経済活動や市民生活のひとつの規範としてとらえてみるということが大切だと感じています。もちろん、インドネシアはほかの宗教のいくつかも認めていることは理解しておく必要があります、例えば、イスラム教、キリスト教、仏教にヒンズー教とそれぞれの祭日を大切に、いくつかの主要な祭日が祝日となっていることが一例かと思われます。しかしながら人口の約9割はイスラム教徒であるとのことですから、必然的にイスラム教に基づく規範が中心になっていると考えたらよいだろうと考えます。

さて、イスラム教を生活規範としてどうとらえるのか、ということをお伝えすることは難しく、経験しないと理解は難しいだろうとも感じています。実際、私もこちらで暮らし、こちらでビジネスをされてきた日本人の方のご苦労話をお聞きし、カウンターパート（専門家が派遣される相手国機関やそこに所属する職員をこう呼びます）が参加する会議やセミナーなどに出席し、そこで感じた違和感という経験をもとにして、いくつかの日本語で書かれた関係の本を読むことによって自分なりの理解と考察を整理してみることができました。

2.2 コーランをご存知ですか？

これからインドネシアでビジネスに取り組まれようとする方やすでに取り組まれている方にお伝えしたいことは、人々の働き方や商慣習自体もイスラム教の規範に基づくだろうということです。では、それはどういうことなのか、というところが皆さんの知りたいことだと思いますが、紙面の都合もあることですから、ここでは私が読んだいくつかの本のうち、ふたつの本を参考書として紹介させていただくに留めたいと思います。

1冊目は阿刀田高氏の「コーランを知っていますか」(2006年初版)⁵⁾です。本書は阿刀田氏なりの解釈を加えてイスラム教の聖典であるコーランの全体像とコーラ

ンができた時代背景などを簡潔になるべく我々日本人になじみやすく伝えようとしています。この本では仏教やキリスト教、ユダヤ教などほかの宗教との比較も行われており、なんとなくですがコーランとは何かをやさしく理解することができると思います。一番印象に残った点はほかの宗教の聖典に比べて成立した時のアラブの商人や部族間の抗争がある中での共同体の維持、そしてそのほかの世界との交わり方という背景事情をコーランが反映し、それが今なお生活規範として引き継がれているのではないかということに関する記述でした。

もちろん我々は実際の当時の事情も知りませんし、アラブとインドネシアの地理地勢やその後の歴史的発展も異なりますので、そうした事情も加味したうえで、コーランと現在のインドネシアの規範がどのようにリンクしているのか、皆さんそれぞれが整理されてみることをお勧めしたいと思います。

2.3 イスラム金融と推進技術

もう1冊は門倉貴史氏の「イスラム金融入門」(2008年初版)⁶⁾です。読者はイスラム教の世界では「利子」をとることは禁じられていることをご存知でしょうか。「利子をとらずにどうやって金融が成り立つの?」と思われるかもしれませんが、その疑問に答えてくれるのが本書です。本書ではイスラム金融の仕組みと世界各国の導入状況などが書いてありますが、基本的な仕組みを説明する章があります。ここでは詳述を避けますが、簡単にいうと今の日本でも行われている仕組みが多く(例えばリース金融)、イスラム金融と格式張らなくても日本でも行われている取引形態や投資の仕組みだということが読んでいと理解できます。ただ本書を読んでいて感じるのは、今の日本でも行われている仕組みではあるが、メジャーではないこと(多分)、比較的ハイリスク・ハイリターン型の仕組みであり、日本人や日本企業が苦手なタイプの仕組みではないかということです。

ここまでで「イスラム金融の話が推進技術とどういう関係あるの?」と思われる方がほとんどではないかと思えます。今の時点で実際の推進技術の普及展開に影響するのではないかと気になっている点をここでは2点だけ挙げさせていただきますと思います。

まずひとつ目は「投資はまずお金を集めてから取り組